政治の現場

再編迷走 4

民主「左傾化」募る不満

民主党が、分裂の危険性をはらむ長年の懸案について、正面から向き合うことを迫られている。

2月8日、民主党が党大会に合わせて福島県郡山市のホテルで開いた、安全保障総合調査会の分科会。調査会長の北沢俊美・元防衛相が、集団的自衛権の憲法解釈見直しに関する検討状況を説明すると、出席した地方議員たちから要望が相次いだ。

「国益を踏まえ、国民に十分説明できる方針をきちっと決めてほしい。一方で、また党内に亀裂が走り、民主党が割れるのではないか。野党再編の導火線にならないか。そうした事態を招かないことも大事だ」

宮城県連幹事長代理の木村勝好・仙台市議がこう訴えると、北沢は「一生懸命努力する」と応じた。

安倍首相が集団的自衛権の行使を可能にする憲法解釈見直しに意欲を示していることを受け、民主党の海江田代表が党の見解作成を北沢に指示したのは昨年9月。その際の海江田の注文は、「党が割れない結論を出してほしい」というものだった。

民主党にとって憲法・安全保障の問題は、党内対立に直結する〝鬼門〟だ。党内に、旧社会党の流れをくむ護憲・リベラル派と、日米同盟を重視し憲法改正にも前向きな保守派を抱えているためだ。リベラル派の中には、北沢らの検討作業に対し「意見をまとめる必要なんてない」と冷ややかに語る議員もいる。

民主党は2月27日、集団的自衛権の行使自体の賛否には踏み込まず憲法解釈見直しに反対する、玉虫色の見解をまとめた。

民主党は、代表を務めた野田前首相や岡田克也・前副総理、前原誠司・元外相ら保守派が要職を退き、海江田執行部に代わると、徐々にリベラル色を強めている。

背景には、保守色の強い安倍政権への対決姿勢を明確にする狙いとともに、党内勢力の変化がある。2012年衆院選で同党の衆院議員が230人から57人に激減、参院の比重が増したことで、参院民主党内で強い影響力を持つ労働組合出身議員らの意向に、一段と配慮せざるを得なくなった。

昨年の臨時国会で、民主党は特定秘密保護法を巡って不信任・問責決議案を乱発するなど、「抵抗野党」路線を鮮明にした。

だが、海江田民主党の「リベラル化」に、保守系議員たちは不満を募らせている。

「北沢さんは中立的立場だが、左派系の意向が強い参院を気にしている。集団的自衛権の問題は、政権を担える政党として絶対に乗り越えないといけない課題だ」

憲法解釈見直しに前向きな保守系の長島昭久・元防衛副大臣＝コラージュ左下＝はこう語り、リベラル派をけん制する。2月25日には、日本維新の会や結いの党などの中堅・若手議員との勉強会で「野党の現実的な外交安保政策を追求しよう。集団的自衛権でも、逃げずに正面から取り組んでいこう」と呼びかけた。

民主党内の別の保守系議員は「無理にリベラル化すると失敗する。与党を経験したのに、『安倍首相は右だから』と言って左に逆張りする発想は間違いだ。旧社会党の歴史が証明している。第2社民党になってしまう」と執行部を批判する。

2月中旬、海江田は、国会近くのホテルにある中国料理店に前原を呼び出すと、中華麺をすりながら語りかけた。

「安全保障基本法案を国会に出そうと思う。今検討している」

党内で具体化していない法案の話をあえて持ち出したのは、前原ら保守派に配慮の姿勢を見せつつ、集団的自衛権行使への賛否で「あいまい戦略」を続ける布石では、という見方が党内に出ている。

2月9日の民主党大会。海江田は長いあいさつの最後に、こう付け加えた。

「英労働党のトニー・ブレア党首は、選挙演説の最後を必ず『教育、教育、教育』という言葉で締めくくった。私は『国民の命、雇用、暮らしを守る』と申し上げる」

英労働党は、ブレアが党首に就き政権に復帰するまで18年もの歳月を要した。分裂回避を最優先する民主党が、いつ、どんな姿で政権に復帰できるのか。その道筋は、まだ当分見えそうにない。（敬称略）

英労働党 政権復帰に18年

英労働党は、1979年、「小さな政府」の実現を掲げたマーガレット・サッチャー氏率いる保守党に政権与党の座を奪われて以降、18年間、野党時代が続いた。

野党転落直後、党首に就任したマイケル・フット氏は、一方的核廃棄を公約に掲げるなど左傾化路線を進めた。83年の下院選で惨敗し、後継の党首となったニール・キノック氏は現実路線への転換を図ったが、炭鉱労働者による大規模ストライキなど急進的行動に走る労働組合への対応に忙殺された。

労組依存が続き、一般の有権者の支持を広げられずに党勢低迷が続いた。

92年の下院選でも敗北した労働党は、94年に当時41歳だったトニー・ブレア氏を党首に選んだ。ブレア氏は、企業国有化などの左翼路線と決別し、党を現実路線に導いた。最優先課題に教育改革を掲げ、97年に政権奪還に成功。2007年まで10年間の長期政権を築いた。